

県内復興・経済日誌（2022年4月）

1日

《阿武隈高地の風力発電所、2025年春完成見通し》

田村、大熊、浪江、葛尾の4市町村にまたがる阿武隈高地への風力発電所整備計画について、事業主の福島復興風力が2025年春に完成する見通しと発表した。約12万世帯分の年間消費量に当たる約14万7千kwの電力を供給し、陸上型の風力発電所の規模としては国内最大となる。

4日

《「YOASOBI」の曲で街歩き、会津若松七日町通りで期間限定ツアー》

ソニー・ミュージックソリューションズ（東京都）などは、七日町通りまちなみ協議会（会津若松市）と連携し、人気音楽ユニット「YOASOBI」の楽曲「大正浪漫」と街歩きを融合した期間限定ツアー（5月29日まで）を展開する。

11日

《富岡町、復興拠点で準備宿泊開始》

東京電力福島第一原発事故に伴う富岡町の帰還困難区域のうち、来春の避難指示解除を目指す特定復興再生拠点区域（復興拠点）で、帰還に向けた住民の準備宿泊が始まった。6町村に設定されている復興拠点では葛尾村、大熊町、双葉町に続き4例目となる。

14日

《県内高卒就職内定率99.6%》

県が公表した、今春の県内新卒高卒者の就職内定率（3月末現在）は99.6%で、前年を0.1ポイント上回った。県内企業への就職内定を表す県内留保率は82.7%と記録が残る過去15年間で最も高い水準となり、県はコロナ禍で「地元志向が高まった可能性がある」（雇用労政課）とみている。

16日

《福島・宮城、地震被害611億円》

福島県沖を震源に最大震度6強を観測した地震発生から1カ月が経過し、被害額は福島、宮城両県の把握分だけで611億円に上った。両県

がまとめた被害額は、福島が約363億円（13日時点）、宮城が約248億円（15日時点）で、いずれも集計途上で住宅被害などは含んでおらず、被害額は今後も増加する見通し。

18日

《福島空港利用者97,250人》

県の発表によると、福島空港発着便の2021年度利用者数は97,250人で、開港以来最少となった2020年度に次いで2番目に少なかった。新型コロナウイルス感染拡大に伴う国内定期路線の運休や減便、国際便の運航中止の継続が主な要因で、平年の半数以下にとどまった。

《県と農業7団体、新規就農者確保に向けて連携協定締結》

県と農協などの県内農業関係7団体が、新規就農者の確保や育成に関する連携協定を結んだ。研修や技術支援、法人化や営農の相談などに連携して応じる。2030年度には現在の約1.5倍となる年間340人以上の新規就農者の確保を目指し、協議会を設置して効率的に支援していく。

21日

《「道の駅ふくしま」プレオープン》

「フルーツ王国・福島」の代表産地の一つ、福島市大笹生に整備された県内35番目の道の駅となる「道の駅ふくしま」がプレオープン（正式オープンは27日）した。東北中央道福島大笹生インターチェンジ脇に立地しており、集客や交流、回遊の拠点化、福島の情報発信、産業振興を目的に整備され、地域活性化の起爆剤として期待される。

27日

《県人口180万人割る》

県が発表した4月1日現在の県推計人口は179万6497人（男性88万6170人、女性91万327人）となり、戦後初めて180万人を下回った。190万人を割った2016年11月から5年5カ月で10万人減少した。少子高齢化や若い世代の県外流出など人口減に歯止めがかかっていない。